

令和7年度版 総合計画の進行管理及び課題管理シート（令和6年度の振り返りと令和8年度の取組検討）

施策No	612	
施策名	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全	施策の目的 <ul style="list-style-type: none">● 環境汚染を未然に防止し、良好な生活環境を維持します。● 自然環境を保全し、次世代に引き継ぎます。● 市民の環境を大切にする心を育てます。● 環境に配慮した事業活動を促進します。
関係課	環境政策課、市民生活課、衛生施設室、気候変動対策課、健康増進課、農山村振興課、都市整備課、道路河川課、学校教育課、生涯学習課	

1. 進行管理
（1）指標の実績・考察と目標年度（令和7年度）の目標値達成見込み

			実績基準値		実績値			見込値	目標値	最終年度（R7）の 目標値達成見込	R6年度の実績説明・考察 及びR7目標値達成見込判断の理由
	指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7		
a	生活環境に関する苦情件数	件	154	175	172	183	201	200	120	④現在の想定では目標達成が困難	生活環境に関する苦情の内、近年の山火事等の報道により、空地の雑草に関する関心が高まっている傾向にあるため、苦情件数は増加しており、目標達成は困難である。
b	適切に整備された森林面積 （主伐、間伐の計）	ha	287.2	342.6	312.1	330.2	241.5	558.0	558.0	③新たな取り組み等により 目標達成の可能性あり	令和6年度は国有林の伐採がないため減少している。令和7年度より新たに森林環境譲与税を活用した森林再生支援の新設を見込んでおり、皆伐等の取り組みが加速されるものと考えられるため。
c	環境美化活動の届出件数	件	76	79	83	79	75	80	145	④現在の想定では目標達成が困難	環境美化の活動団体が固定化しており、新たに活動する団体が出てきていない。
d	事業活動による公害苦情件数	件	20	47	35	35	32	30	15	④現在の想定では目標達成が困難	公害パトロール等を実施し、指導等を行っているが、近年は公害関係法令により規制される事業者以外の苦情や近隣トラブルに近い内容の苦情が主であり、目標達成まで減少させることは困難である。

（2）構成する事務事業の昨年度（令和6年度）の取組結果 ※効果が上がった、下がったの判定は、事業効果を説明する指標のR5との比較となります。

①施策関連区分A（実施計画事業）

【効果が上がった事業】										事業費（単位：千円）			効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6				
8	水質保全事業	河川水の水環境基準達成率	%	96.2	94.5	96.7	1,390	2,016	2,216				河川水及び地下水の、水環境及び水資源が保全されることにより、良好な生活環境が維持される。
		河川が保全されていると感じている市民の数	%	78.2	75.6	78.0							
		地下水の水環境基準達成率	%	99.8	100	100							
9	水道水未普及地域支援事業	未普及世帯数	世帯	107	106	104	253	0	344				良好な生活環境が維持され、衛生的で安全で安心できる飲用水が安定的に確保される。
10	生活環境保全事業	住んでいる地域が快適で住みやすいと感じている市民の数	%	80.2	79.7	81.8	1,758	227	372				良好な生活環境が保全される。
		河川（水路）が汚いと思っている市民	%	20.1	21.7	20.3							
		居住地域の生活環境が悪いと思っている市民	%	15.6	14.7	14.6							
18	クビアカツヤカミキリ対策事業	被害樹木	本		799	1,229	0	11,424	21,998				特定外来生物クビアカツヤカミキリ対策の必要性が理解され、被害樹木が減少する。
		被害樹木伐採報告本数	本		259	205							
		補助金交付申請件数	件		54	45							
		防除用の薬剤配付及びネット貸出の申請	件		82	55							
23	都市公園クビアカツヤカミキリ被害対策事業	被害木のうち防除対策を実施した割合（累計）	%	19.4	27.2	100	0	11,121	20,713				市を代表する桜の名所である①城山公園・②堀米桜堤・③松原公園・④旗川戸奈良緑地・⑤嘉多山公園・⑥梅林公園・⑦朱雀中央公園の桜に対し防除対策を実施することができた。

【効果が下がった事業】										事業費（単位：千円）			効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6				
3	明るく安全な里山林の整備事業	里山林の整備面積	ha	102.7	99.1	92.0	5,489	5,223	4,555				整備面積が減少傾向にあるが、地域の自主的な協力により、自然環境・環境保全・景観の維持などの多様な効果が表れている。
19	森林環境学習事業	講座の開催回数	回	2	4	3	215	350	184				自然環境を大切にする心が育成される。
		自然環境が良好と考えている市民の割合	%	67.0	68.1	66.1							

②施策関連区分B（実施計画事業以外）

【効果が上がった事業】										事業費（単位：千円）			効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6				
11	環境審議会運営事業	住んでいる地域が快適で住みやすい地域であると思う市民	%	80.2	79.7	81.8	91	61	68				住んでいる地域が、快適で住みやすい地域であると思う市民が増える。
15	自動車騒音常時監視面的評価事業	面的評価点数	件	9	13	10	1,705	1,804	1,848				自動車騒音を監視することにより、良好な生活環境が維持される。
		自動車騒音の水環境基準達成率	%	95.2	91.8	93.3							
		騒音や振動が気になる市民の数	%	25.5	22.5	23.3							
16	専用水道等水道施設対策事業	専用水道施設	施設	8	8	8	0	2	0				良好な生活環境が維持される。
		簡易専用水道施設	施設	194	194	195							
		給水停止命令件数	件	0	0	0							
		住んでいる地域が快適で住みやすいであると思う市民	件	80.2	79.7	81.8							
		小規模水道施設	施設	22	22	20							
17	土砂等の埋立て等対策事業	住んでいる地域が快適で住みやすいと思っている市民	%	80.2	79.7	81.8	510	823	0				土砂等による埋立てが適正に実施され、良好な生活環境が保全される。
22	渡良瀬川グリーン運動協議会参画事業	参加人数（市内）	人	0	0	250	0	0	0				清掃活動を行うことによって、渡良瀬川流域の河川環境の確保が図られている。
		ゴミ収集料（市内、2トラック）	台	0	0	3							

【効果が下がった事業】										事業費（単位：千円）			効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6				
1	とちぎ環境・みどり推進機構参画事業	里山林整備面積	ha	19.9	14.9	0.0	61	61	61				里山林の保全活動等を行う団体に交付金を支給し、保全活動等を支援している。支援期間経過後においても環境保全活動が継続的に行われている。
14	市営墓地維持管理事業	墓地利用許可者数	人	484	482	477	1,276	1,534	1,558				市が許可した利用者が、市営墓地を利用することができる。市営墓地が適切に維持管理される。
20	佐野市渡良瀬川にサケを放す会支援事業	墓地内の通路等の草刈り	回	3	3	3	28	28	0				豊かな自然環境が保全、再生されている。
		自然環境が良好と考えている市民の割合	%	67.0	68.1	66.1							

（3）基本方針の取組状況

①特に実績をあげている取組（計画初年度(令和4年度)以降の取組状況）

- ・良好な生活環境を保全する取組の一つとして、浄化槽法第11条に規定する法定検査の未受検者に、郵送で受検するよう指導しており、受検率は改善傾向にある。
- ・森林環境学習事業（森林観察会、生き物観察会）の参加者数は、増加傾向にある。

②未着手等計画通りではない取組（及び今後の対応）

- ・いわゆる「ごみ屋敷」の解消に向け、行為者に継続して指導しているが、解消に至っていない。
- ・外来カミキリムシ類による被害の拡大防止のため、県や近隣自治体等と連携し、市民等に被害木の伐採等に要する費用の一部を補助しているが、被害木の本数は減少していない。
- ・市内で新たに里山林整備に取り組める団体が減少してきており、また、既取組団体にも活動継続が困難なものが出てきている状況である。今後は新規団体の募集を続けるとともに、既取組団体の活動を維持できるよう支援を継続していく。

（4）令和6年度行政経営方針の取組状況

①令和6年度行政経営方針

- ・空き地の適正な管理、犬猫の適正飼養、野焼き禁止等について、一層の啓発を図るとともに、苦情の原因者に対しての指導を強化する。
- ・県、近隣市等と連携し、特定外来生物（外来カミキリムシ類）による被害を最小限に抑える。
- ・公害を未然に防止するため、河川水、地下水、自動車騒音等の定期的な観測・調査を行うとともに、関係機関と連携した公害パトロールを実施する。
- ・地域の環境美化活動に取り組む団体を広報さのや市ホームページで紹介し、市民の環境美化活動への自主的な取組の拡大を図る。
- ・いわゆる「ごみ屋敷」の解消に向け、関係機関と協力し指導等を継続し、周辺の生活環境の保全に努める。
- ・水道水未普及地域への飲用水の安定確保に向け、飲用水等給水施設整備費等の補助による支援を行う。
- ・自然環境への関心を高めるため、自然観察会の開催や環境に関する啓発を行う。
- ・里山林の整備を推進するため、広報さのやにより制度の周知及び活用を広く市民に呼びかけるとともに、関係機関と連携した支援や団体への説明を実施する。
- ・ナラ枯れ被害に対して、森林病虫害等防除法及び栃木県ナラ枯れ防除対策基本方針に基づき、防除対策を行う。

②令和6年度行政経営方針の取組状況

- ・空き地の適正な管理、犬猫の適正飼養、野焼き禁止等について、広報紙及び市HP等で啓発を図っている。また、苦情を受けた場合、原因者に指導を強化している。
- ・特定外来生物（外来カミキリムシ類）について、県、近隣市等と連携し、情報共有等図っているが、被害木は減少していない。
- ・河川水、地下水、自動車騒音等の定期的な観測・調査を行い、関係機関と連携した公害パトロールを実施している。
- ・地域の環境美化活動に取り組む団体を、広報さのや市ホームページで紹介できていない。
- ・いわゆる「ごみ屋敷」の解消に向け、行為者に継続して指導しているが、解消に至っていない。
- ・水道水未普及地域における給水施設の整備に伴う補助金申請は2件である。（既存の給水施設の不具合による交換に伴い、補助申請となるため、事前の件数見込みは困難である。）
- ・自然観察会（森林観察会、生き物観察会）を開催し、参加者に自然環境へ関心を持ってもらった。
- ・里山林の整備を推進するため、広報さのやにより制度の周知及び活用を市民に呼びかけた。制度利用を希望する相談があり、制度や規約作成について説明を行った。
- ・ナラ枯れ被害に対して、農山村振興課所管施設（その他市有施設は各課対応）及び民間施設の防除対策を行った。

2. 課題と次年度（令和8年度）の取組

（1）課題<環境変化や関係者の意見、要望等を踏まえて>

- ①空き地の適正管理、犬猫の適正飼養及び野焼きの禁止対策
- ②外来カミキリムシ類による被害拡大防止対策
- ③典型7公害（水質汚濁、大気汚染、騒音、振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下）の防止による良好な生活環境の維持
- ④市民の環境美化活動への自主的な取組の拡大
- ⑤「ごみ屋敷」の解消
- ⑥水道水未普及地域での飲用水の安全・安定確保
- ⑦市民の自然環境への関心の向上
- ⑧県が指導等の主体となる盛土規制法の運用開始に伴い、県等の関係機関と連携し、新たな盛土の適正な実施及び既存無許可盛土の改善
- ⑨里山林維持管理団体の体制づくりと新規整備団体の掘り起こし
- ⑩佐野斎場及び葛生火葬場の安定的な運営の確保

（2）課題に対する今年度（令和7年度）内の取組状況、予定

- ①空き地の適正な管理、犬猫の適正飼養、野焼き禁止等について、広報紙及び市HP等で啓発を図る。また、今年度から運用開始した、飼い主のいない猫の不妊及び去勢手術補助金について、適正に補助を実施し、次年度の取組にむけて事業の検証を行う。
- ②外来カミキリムシ類による被害の拡大防止のため、県や近隣自治体等と連携し、市民等に被害木の伐採等に要する費用の一部を補助する。
- ③公害パトロールを実施する。公害等の苦情の相談を受けた場合、迅速な現地の確認による状況の把握を行い、単純な原因者への指導等だけではなく、申立者の人間性、苦情の背景等も考慮したうえで、個々に対応を検討する。
- ④環境美化実施届に、活動目的や市ホームページ等への団体紹介の可否の欄を設けるため、届出様式の一部修正する。
- ⑤ごみ屋敷の解消に向け、行為者に継続して指導を行う。
- ⑥水道水未普及地域における給水施設の整備に伴う補助金の交付を行う。
- ⑦自然観察会（森林観察会、生き物観察会）を開催し、参加者に自然環境へ関心を持ってもらう。
- ⑧新規不法盛土の相談窓口を開設し、市民からの苦情・相談に備える。苦情等があった場合には、すみやかに現地の確認等を行い、県に情報提供し、業務を引き継ぐ。また、既存無許可盛土については、市土砂条例に基づき指導を実施する。
- ⑨里山林維持管理団体の体制づくりとして、整備費用の支援を行うとともに、新規整備団体の掘り起こしとして広報紙による周知を行っている。
- ⑩指定管理施設（佐野斎場・葛生火葬場）の次期の指定管理者の選定を行う。

（3）次年度（令和8年度）の取組（案）

- ①生活環境の保全を図るため、空き地の適正な管理、犬猫の適正飼養、野焼き禁止等について、一層の啓発を図るとともに、原因者に対しての指導を強化する。
- ②県、近隣自治体等と連携し、外来カミキリムシ類による被害を最小限に抑えるため、被害木の伐採等を含めた防除対策について周知啓発を図る。
- ③公害を未然に防止するため、河川水、地下水、自動車騒音等の定期的な観測・調査を行うとともに、関係機関と連携した公害パトロールを実施する。
- ④地域の環境美化活動に取り組む団体を広報さのや市HPで紹介するとともに、市民の環境美化活動への自主的な取組の拡大に向け周知啓発を実施する。
- ⑤ごみ屋敷の解消に向け、関係機関と協力し原因者に対し指導等を継続するとともに、周辺の生活環境を保全していく。
- ⑥水道水未普及地域における飲用水の安定確保のため、飲用水等給水施設整備費等の補助により支援を行う。
- ⑦自然環境への関心を高めるため、自然観察会の開催や環境に関する啓発を行う。
- ⑧県及び県警等と連携し、新規不法盛土及び既存無許可盛土の解消に取り組む。
- ⑨里山林維持管理団体の体制づくりの支援を継続し、新規整備団体の掘り起こしも継続して行う。
- ⑩佐野斎場及び葛生火葬場の更新、霊柩自動車の運行並びに将来の施設のあり方について検討する。